

リボン	一、四〇〇
帶及輪	三、〇〇〇
線索及撚合線	一、四〇〇
筒及管	四四、九〇〇
屑及故鐵	二、七〇〇
軌條	五九、三〇〇
電線支柱材料	二、〇〇〇
建築材料	一九、三〇〇

等を主なるものとす

上記本邦製出鋼材並に輸入鋼材種目を參酌して、本邦に於ける一ヶ年の使用鋼材の種目の大勢を知り得へし。

四、本邦に於ける鐵鋼類輸入の趨勢

前述の如く、最近本邦鋼材需用額は約百三十萬噸に達せるか、之れに對する本邦現時自給額は八幡製鐵所、釜石田中製鐵所、室蘭日本製鋼所、住友鑄鋼所、神戸製鋼所及び日本鋼管會社等を主たるものとす、其他の諸工場並に他に特種鋼製出の小工場を合して三十餘萬噸に過ぎず、自餘の百萬噸は之れを海外より輸入するの状況にあるを以て、本邦製産高は僅に需用額の四分の一を充たすに過ぎず、我國の鐵工業の萎微振はさるは主として鐵礦産額の見るべきものに依るを以て、今後一大寶庫の開發せらるゝにあらざれば本邦需用鐵材は依然として大部は海外よりの輸入に仰かざるへからず、假りに現狀にして推移せんか本邦需用額の大部は輸入額に依て支配さるゝとなり、需用の増進は直ちに輸入の増進を來すものと見るべく、今過去に於ける輸入額の増進率より將來を卜せんに本邦鐵

輸入額に於て明治二十八年以後の三ヶ年と明治三十八年以後三ヶ年を比較するに、十年間に約三倍の増進をなし又明治三十四年以後の三ヶ年と明治四十四年以後の三ヶ年を比較するに同しく十年間に約三倍強の増進をなせるを以て、我國十年間の鐵輸入の増進は三倍強となるの觀あり、然れとも其輸入は日露戰爭前後に於て著しき變調を來たし戰前明治三十四年以後の三年間の鐵類輸入額は、一ヶ年平均二千萬圓餘なりしか戰後の明治三十八年以後四十年に至る三年間の平均、一ヶ年の輸入額は四千二百萬圓餘に激増し急激の増進をなせるを以て、同戰爭は實に我國鐵類輸入に於て一大革命を劃せるものと見るを得へし、而して同戰爭前迄は多くも二千萬圓に過ぎざりし鐵類輸入か同戰爭後一躍四千萬圓に激増したるは、前に述べたる如く戰爭は我國の鐵輸入を速進したる一大動機なるを以て、此戰爭の前後に跨りたる對照を以て將來の鐵輸入の趨勢を卜するは妥當ならず、從て同戰後に於ける増加の割合を以て今後の輸入額を卜するを尤も當を得たるものとす、明治三十八年より同四十年に至る三ヶ年に於ける平均一ヶ年の鐵類輸入額は前述の如く約四千二百五十萬圓にして、夫れより六年後の明治四十四年以後の三ヶ年に於ける平均一ヶ年の輸入額は六千五百四十萬圓餘となり、其増加の割合は約一倍半強に該當するを以て之れを十ヶ年に換算するときは二倍半強となるを以て、我國の鐵輸入か今後も此割を以て増進するものとせば今後十年後、即ち大正十二年には輸入額實に一億七千萬圓餘に達する理なり。

前段に於て述べたる輸入鐵類と稱するは、銑鐵、鋼材其他簡單なる加工品に過ぎざるを以て、此外機械類の形に於て輸入せらるゝものを合すれば正味鐵鋼材としての輸入額のみにては同年度に於て二億萬圓の巨額に達する理なり。

五、我國今後の鐵鋼製産力

已に述べたる如く、今後鐵鋼材の需用は其輸入と相俟て逐年増加すべきは明かにして、殊に近時歐